2018.7.7　GEWANDHAUS 龍ヶ崎ゲヴァントハウス【オリジナルCDコンサート】

隠れた名曲・佳曲を集めて　第8回

プログラム

今日はお馴染みとなりました「隠れた名曲・佳曲を集めて」の特集、その第8回目をお送りします。**アントン・ルビンシュタイン**はロシアの作曲家・ピアニストで、ピアノ曲を中心に交響曲、協奏曲他多くの作品を残しましたが1862年にロシア初の音楽院「サンクトペテルブルク音楽院」を創設、ロシア・ピアノ学派の基礎を築きました。王室の避暑地だった島へしばしば出かけていたルビンシュタインが、大公夫人に仕える24人の美しい女官たちの肖像をピアノ組曲にしたのが「石の島」で、第22曲の「天使の夢」は美しい旋律で知られる作者の代表作です。弟のニコライ・ルビンシュタインはチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を作曲依頼したピアニストとして有名です。フランスの作曲家**ラロ**のチェロ協奏曲は1877年の作品で、チェロの特性を生かした優れた構成と巧みな管弦楽法によって、古今のチェロ協奏曲を代表する一曲として知られる傑作です。ドイツの作曲家**レーガー**の「変奏曲とフーガ」の主題となっているのは、有名な「トルコ行進曲」を持つピアノ・ソナタ第11番第1楽章の主題ですが、モーツァルトの優美なメロディを生かしながら、美しく軽快に変化して行き、重厚なフーガで締めくくる管弦楽変奏曲を代表する名曲です。**サン=サーンス**のピアノ協奏曲第4番は1875年40歳の時の作品で、循環形式による2楽章構成。ロマンティックで華麗な色彩と、円熟したピアノ書法が見事なロマン派ピアノ協奏曲の名作のひとつ。1939年に書かれた**ショスタコーヴィチ**の交響曲第6番は、有名な大曲、第5番と第7番「レニングラード」の間に挟まれた3楽章形式の30分程度の作品ですが、深い悲劇色の強い第1楽章、スケルツォの第2楽章、そしてギャロップのリズムに乗って軽快に突き進む、ユーモアに溢れた第3楽章など、ショスタコーヴィチの個性が全開する傑作です。ごゆっくりお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊

アントン・ルビンシュタイン（1829～1894）：
天使の夢（石の島“カーメンヌイ・オストロフ”）op.10　第22番
シューラ・チェルカスキー（ピアノ）
（1993.2.9 サントリーホールでのLive）

エドゥアール・ラロ（1823～1892）：
チェロ協奏曲ニ短調～ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章
ミクローシュ・ペレーニ（チェロ）
エルヴィン・ルカーチ指揮ブダペストフィルハーモニー管弦楽団
（1977.1.3 ブダペスト、エルケル劇場でのLive）

マックス・レーガー（1873～1916）：
「モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ」～ 抜粋
大野和士指揮スウェーデン放送交響楽団
（2006.11.24 ストックホルム、ベルワルドホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

カミーユ・サン=サーンス（1835～1921）：
ピアノ協奏曲第4番ハ短調op.44 ～ 全曲
パスカル・ドゥヴァイヨン（ピアノ）
ジャン・フルネ指揮NHK交響楽団
（1993.2.18 NHKホールでのLive）

ドミトリ・ショスタコーヴィチ（1906～1975）：
交響曲第6番ロ短調op.54 ～ 第1楽章、第3楽章
ミハイル・ユロフスキ指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
（2006.5.5 ライプツィヒ・ゲヴァントハウスでのLive）

★ホームページアドレス　http://gewandhaus.sakura.ne.jp/wp/